

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

産業・雇用を支え活力ある地域社会を形成する道づくり計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

長野県及び長野県上田市

### 3 地域再生計画の区域

長野県上田市東塩田地区

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地域の現況

上田市は、長野県の東部に位置し、古くは奈良時代に信濃国分寺が置かれ、戦国時代に真田昌幸により上田城が築城されるなど、東信地域の核として発展してきた人口約16万人の都市である。明治・大正期には、養蚕業・蚕種業が非常に盛んで蚕都上田と呼ばれ、小県蚕業学校（現上田東高校）や上田蚕糸専門学校（現信州大学繊維学部）などの教育機関も置かれるほど繁栄していた。

現在は、前述の信州大学繊維学部内にある上田市産学官連携支援施設（浅間リサーチエクステンションセンター：AREC）を中心とした次世代に向けた地域産業の発展に向けた取り組みを推進する中で、製造業が市の経済を牽引する基幹産業となっている。長野県内の市町村において、製造業の事業所数で第2位（県内占有率：8.1%）、従業者数で第2位（9.2%）、粗付加価値額で第3位（9.1%）、製造品出荷額で第4位（8.5%）と県内有数のものづくり産業の集積地となっている。（2020 工業統計調査、上田市人口÷長野県人口=7.5%：2021 毎月人口異動調査）特に東塩田地区は、リサーチパーク工業団地と東塩田林間工業団地が立地し、市内の大手企業をはじめとした合計42社が集積する上田市の「ものづくり産業」の中心拠点となっている。

また、この地域には東山市有林327haがあり、毎年行われる植樹活動、松くい虫被害木の景観対策などの森林整備が行われているほか、総合公園の自然運動公

園、教育機関の長野大学・長野県工科短期大学校・上田女子短期大学、観光施設の東山観光農園・宣教師館、公共的施設のマルチメディア情報センター・農業バイオセンター・上小森林組合と数多くの施設が集積する一大活動拠点となっており、一体的な道整備は産業振興にとどまらず、この地域と関わる多くの市民・企業が恩恵を受けるものである。

なお、東塩田地区を含んだ一帯は、『レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～』として県内初の日本遺産に認定されており、歴史的魅力や特色を地域が主体となって総合的に整備・活用することにより、更なる活性化を推進している。

#### 4-2 地域の課題

東塩田地区は、恵まれた自然環境の中に多くの施設や地域資源が集積し、上田市の一大活動拠点として位置付けられているが、その転換期となったりサーチパーク工業団地と東塩田林間工業団地の造成は昭和から平成にかけて行われており、すでに30年以上が経過している。これまでも部分的な修繕は行ってきたものの、道路舗装をはじめとしたインフラ施設の全体的な老朽化が顕著になってきており、工業団地からのトラック輸送を中心とした製品輸送の安定性と快適性が損なわれ、早急な大規模修繕が必要となっている。

また、東山市有林327haについては、市街地近郊の上田市民のふるさとの森であるが、昭和59年から松くい虫被害が発生するなど里山保全の面からの対応が求められている中で、そのアクセス道は近年頻発する豪雨などの自然災害に対して非常に脆弱であり、適切な森林整備に対する安定性が不安視されている。

更に、自然運動公園を利用する市民や東山観光農園を訪れる観光客に対しての快適なアクセスに支障が出ており、総合的な地域の発展と活性化を図る上でインフラの再整備が求められている。

#### 4-3 計画の目標

##### 【概要】

上述の課題を踏まえ、地方創生整備推進交付金（道の整備事業）を活用し、上田菅平ICをはじめとした高速交通網に連絡する市道の新設・修繕を行い安定性

と快適性を確保することにより、更なる産業振興を図るとともに、林道整備も一体的に実施し、東山市有林の利活用を促進していくものである。また、様々な分野の施設への利便性を向上させ、地域の雇用創出と活力ある地域社会の形成を目指すものである。

#### 【数値目標】

(目標 1) 上田市の製造品出荷額等 (工業統計調査 ※速報値)

5,255 億円 (令和元年度) ⇒ 5,400 億円 (令和 9 年度)

(目標 2) リサーチパーク工業団地及び東塩田林間工業団地の従業者数

3,800 人 (令和 3 年度) ⇒ 4,000 人 (令和 9 年度)

(目標 3) 森林整備面積の増加 (東山市有林)

0 ha (令和 3 年度) ⇒ 1.5 ha (令和 9 年度)

(目標 4) 自然運動公園利用者

48,560 人 (令和 2 年度) ⇒ 99,600 人 (令和 9 年度)

※目標 4 については、新型コロナウイルス感染症まん延前の数値まで戻すことを目標とする。

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

リサーチパーク工業団地及び東塩田林間工業団地からの出荷は満遍なく日本全国に及んでいるが、特に東京・関東方面、中京・関西方面の物流が中心となっている。このことから、安定的で快適な物流環境創出のため、上田菅平インターチェンジ、東部湯の丸インターチェンジ、三才山トンネル、新和田トンネルにアクセスする東塩田地区の幹線市道の整備を実施する。同時にこのルートの整備は、市外から東塩田地区に訪れる企業者、観光客にも有効であり、総合的な地域振興につながるものである。

また、この幹線市道から連続する林道の危険個所を整備することにより、東山市有林への安全性の確保が図られ、恒久的な森林として守り・育て、地域の環境保全につなげていくことができる。同時にこの林道整備により、工業団地の通勤路として活用することが可能となり、従業員の利便性が向上する。

### 5-2 第 5 章の特別の措置を適用して行う事業

## (1) 地方創生道整備推進交付金【A3008】

対象となる施設は以下のとおりで、事業開始に係る手続き等を完了している。  
なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

- 市道 道路法に規定する市道に認定済み。( )内は認定年月日。  
市道 富士山運動公園線 (平成元年9月26日)  
市道 久保峠線 (昭和61年12月18日)  
市道 東塩田11号線 (昭和61年12月18日)
- 林道 林道規定による林道台帳に路線を記載。  
林道 原峠線

### [施設の種類] [事業主体]

- 市道 上田市
- 林道 上田市

### [事業区域]

- 上田市

### [事業期間]

- 市道 令和4年度～令和9年度
- 林道 令和6年度

### [整備量及び事業費]

- 市道 1.771km、林道 0.167km
- 総事業費 279,999千円 (うち交付金 137,999千円)  
市道 270,000千円 (うち交付金 135,000千円)  
林道 9,999千円 (うち交付金 2,999千円)

[事業の実施状況に関する客観的な指標及び評価の方法]

	基準年	R4	R5	R6	R7	R8	R9
指標1 快適な物流の確保 上田菅平ICまでの移動時間	(R3) 34分	34分	34分	33分	32分	32分	30分
指標2 地域の交流推進 富士山運動公園線の交通量	(R3) 8,860台	8,860台	8,900台	7,560台	7,600台	7,600台	7,700台
指標3 観光交流の促進 東山観光農園の来園者	(R元) 18,500人	12,400人	12,200人	12,100人	12,200人	12,300人	12,400人
指標4 安全な通行の確保 富士山運動公園線の事故件数	(R2) 15件	15件	15件	13件	11件	11件	9件

指標1：進和製作所（東塩田林間工業団地：午前10時発）から上田菅平ICまでのトラックによる移動時間

指標2：富士山運動公園線における平日12時間交通量（双方向）

指標3：東山観光農園における毎年度の統計資料

指標4：富士山運動公園線における年間事故発生件数

年度末に各指標の状況確認を行い、事業の進捗と目標の達成状況について評価を行う。

[事業が先導的なものであると認められる理由]

市道及び林道を一体的に整備することにより、東塩田地区に面的に広がる様々な施設へのアクセスの快適性が飛躍的に向上し、市内外からの多くの交通量に対して複数の幹線道路がネットワークとして十分に機能し、投資効果が最大限に発揮できる。また、より競争力の高い工業団地が形成され、地域経済の活性化や雇用創出につながり、製造品輸送の際の品質確保を図ることができるとともに、林道及び林道に至る市道の整備により、松くい虫被害への対応など東山市有林の適切な管理・保全と地域の里山活動や環境教育への利活用を効率的に推進することができる。

なお、市道（富士山運動公園線、久保峠線、東塩田11号線）、林道（原峠線）

の整備は、上田市国土強靱化地域計画に明記された事業である。

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

##### (1) 産金官連携雇用創出事業

ものづくり関連企業が取り組む、既存技術の応用による成長産業への進出や新分野への進出を目指し業績拡大に向けた事業を、金融機関の融資と協調して支援することで雇用創出につなげ、市内経済の活性化を図る。（上田市事業：平成28年度～）

##### (2) ものづくり企業相談体制整備事業

新たな事業展開を模索している「ものづくり企業」の販路開拓・拡大に向け、コーディネーターの伴走支援や専門家派遣などによる相談体制を充実させるとともに、首都圏等で開催される展示会でブースを確保し、直接的な販路拡大の機会の提供等を図る。（上田市事業：平成28年度～）

##### (3) 基幹産業支援体制整備事業

地域製造業の同業種グループが実施する共同受発注の体制づくりや販路拡大のため専門コーディネーターを設置し、企業の安定、並びに潜在成長力を引き出す。（上田市事業：平成29年度～）

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

##### (1) 主要地方道別所丸子線鈴子バイパス整備事業

上田都市環状道路に位置付けられた主要幹線道路であり、東塩田林間工業団地を連絡し、特に三才山トンネル方面（松本・中京・関西方面）へのアクセスが飛躍的に向上する道路整備である。また、信州の鎌倉と呼ばれる塩田平の史跡や別所温泉などの観光地への主要幹線道路となる。（長野県事業：令和2年度～）

##### (2) 平井寺トンネル、三才山トンネル、新和田トンネル無料化

長野県道路公社が管理運営していた3つの有料トンネルの無料化。平井寺トンネルは平成30年、三才山トンネルは令和2年に無料化になり、新和田トンネルは令和4年に無料化の予定。これまでの無料化に伴い松本方面との交流が活発化している。（長野県事業）

### （3）市道久保峠線整備事業

主要地方道別所丸子線を補完する幹線市道の狭隘区間180mの拡幅整備。本整備計画で実施する区間の西側の部分。（上田市事業：平成28年度～令和2年度）

### （4）第67回全国植樹祭の開催

国土緑化運動の中心的な行事である全国植樹祭の上田会場が自然運動公園（東山市有林）で行われ、約3,900本の苗木が植樹された。（長野県、公益社団法人国土緑化推進機構事業：平成28年度）

### （5）全国植樹祭会場跡地利用事業

全国植樹祭の開催地に、ウッドデッキ、松くい虫被害材を活用したオブジェ、案内看板、自然解説看板を設置し、市民に親しまれる里山整備の促進を図る。（上田市：平成29年度～令和元年度）

### （6）森林整備事業

東山市有林において、良好な木材（ヒノキ）の育成のため搬出間伐を実施。事業面積8.9ha、ヒノキ伐採率30%、集材材積310m<sup>3</sup>（上田市：令和元年度）

### （7）信州の木活用モデル事業（森林病虫害被害枯損木利活用事業）

東山市有林において、松くい虫被害を受け枯損したアカマツの有効利用を図るため、被害木等を伐採・搬出し、チップ化するとともにチップの品質の検証、工程調査を実施。事業面積1.28ha。激害地の再生を図り、チップは長野市「お山の発電所」に持ち込む。（上田市（県補助事業）：平成29年度）

## (8) 新技術等開発事業

新技術の開発又は新産業の創出のために行う事業で、市内に工場又は研究機関等がある中小企業者を対象に、要件を満たす研究開発に要する経費に対して補助率2分の1、上限300万円の助成を行う。(上田市事業：平成15年～)

## (9) 市道下之郷須川線舗装修繕事業

上田市国土強靱化地域計画に示されており、リサーチパーク工業団地内に位置する幹線市道。老朽化箇所400mの舗装修繕を実施する。(上田市事業：令和6年度、令和8年度)

## 6 計画期間

令和4年度～令和9年度

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

目標1：工業統計調査 ※基準年については速報値

目標2：工業団地組合へのヒアリング調査により実数把握

目標3：東山市有林の森林整備面積の平年比増加分(間伐・松くい虫対策等)

目標4：自然運動公園における毎年度の統計資料

以上により年度末に状況確認を行い、事業の進捗と目標の達成状況について中間評価、事後評価を行う。

### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	基準年	R6	R9
目標1 製造品出荷額等	(R元) 5,255億円	5,270億円	5,400億円
目標2 工業団地従業者数	(R3) 3,800人	3,850人	4,000人

目標3 森林整備面積の増加	(R3) 0ha	0.5ha	1.5ha
目標4 自然運動公園利用者	(R2) 48,560 人	82,100 人	99,600 人

- 目標達成状況以外の評価を行う内容
  1. 事業の進捗状況
  2. 工業団地企業への聞き取り調査
  3. 総合的な評価や今後の方針

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

4に示す地域再生計画の目標に対する中間評価及び事後評価の内容については、速やかに上田市ホームページにより公表する。